～男女共同参画社会を考える情報コーナー～

ウィズ ユー　あなたといっしょに
With you

第 12 回

介護する側、される側の両方にやさしい介護を・・・

－平成 14 年度　八戸市民の男女共同参画に関する意識調査から－

広報はちのへ 9 月 15 日号に引き続き、八戸市が実施した「八戸市民の男女共同参画に関する意識調査」から身近な問題を取り上げます。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今年 44 歳になる人が 65 歳になる 2025 年には、65 歳以上の高齢者比率は 28.7%になると試算されています。

社会の高齢化が進むにつれて、介護への関心が非常に高まっています。介護保険制度の施行 4 年目を迎え、男女共同参画の視点で『介護』について考えます。

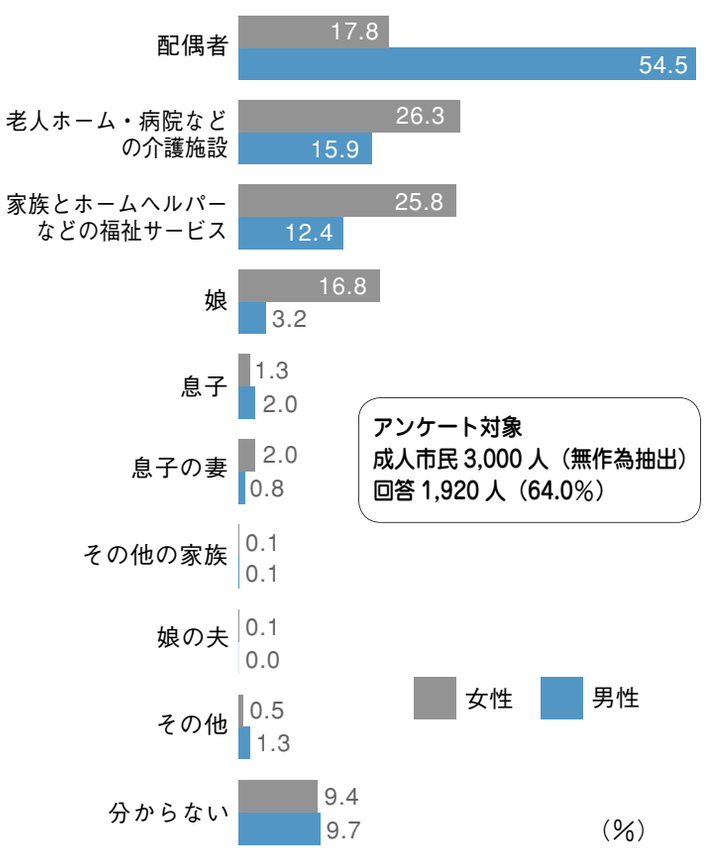
▼介護は女性？▲

自分が介護を受けなければならなくなったとき、男性は「妻」に頼みたいとする人が半数以上です。

逆に、「夫」に頼みたいとする女性は20%以下と少なく、「老人ホーム・病院などの介護施設」「家族と福祉サービス」がそれぞれ4分の1以上で、半数以上の女性はなんらかの社会的介護に期待していることがわかります。（図参照）

回答者1847人中229人が「夫」や「息子」などの身内の男性に、632人が「妻」「娘」「息子の妻」などの身内の女性に介護を頼みたいと考えており、「介護は女性がするもの」という思いが強いことがわかります。

あなたが介護を受けなければならなくなったとき、誰に介護を頼みますか？



アンケート対象
成人市民 3,000 人（無作為抽出）
回答 1,920 人（64.0%）

▼介護NOW（今）▲

現在介護をしている人、最近まで介護をしていた人にお話をお聞きしました。

☆グループホームに入所

痴ほう症の義母にとって、家での生活はストレスが大きかったと思います。一方、介護を必要とする義母

を抱えながら仕事をしていくことはとても困難でした。そこを埋めてくれているのが、わが家の場合は介護保険制度のグループホームです。

たまにホームを訪問すると、ストレスのない生活からか、義母は本当に穏やかで明るい顔をしていると感じます。お互いのために良かったし、制度を利用したからこそ得られたことだと実感しています。（40代女性）

☆自宅で介護

当時は、勤めながら義母を自宅で介護していたので、一人で抱えることの限界を感じました。

夫には愚痴を言わないようにし、笑顔と演技で話し合いに持っていく努力をして、二人で役割を持ちながら介護をしてきました。でも、体力やいろいろな限界があって、仕事は辞めざるを得ませんでした。

「自分だけで」という観念を捨て、他人の手を借りていれば、もっと気持ちよく介護ができたのにと思います。

そのためにも、日ごろから家の中を自分だけが分かっているのではなく、ヘルパーや親戚・周囲の人たちを受け入れる態勢にしておくことが必要です。（50代女性）

☆自宅で介護

「介護は女性がするもの」という固定観念があります。妻に依存して、親の介護のほかに自分のことも妻に任せていました。

親の介護は頼むにしても、これからは自分にできる家事は自分でしなくてはいけないと感じます。できるかなぁ～。（70代男性）

☆自宅で介護（デイサービス利用）

高齢者の介護は、突然やってきます。母は、骨折の手術をした後、要支援の認定を受けました。その直後、腰を痛めてベッド生活を余儀なくされました。

通常、介護認定を受けるまでに時間がかかりますが、母の場合、動けなくなる以前に要支援認定を受けていたので、すぐに介護用のベッドを安価で借用できました。

日ごろから、かかりつけの医師と将来どんなケアが必要になるか話し合い、支援内容について知識を得ておくといいと感じました。（40代女性）

▼これからの介護▲

実際に介護に携わっている皆さんにお話を伺うと、介護には「こうでなければ」という方法はないようです。

「あそこの家は、親を老人ホームに入れたんだって。冷たいよねえ」という噂や、「嫁なんだから、義父母の介護は私がしなくては」という思い込みで、介護する側にとっても介護される側にとっても、窮屈な生活を強いることは避けたいものです。

老後に不安を抱える人は多く、人生の最終章をどのように過ごすか、過ごせるかは、関心の高いところです。

「介護する側、される側の両方にやさしい介護」とはどんなことかを、家族や親戚などで話し合うことも大切です。

介護される人の気持ちを十分にくみいれたケアができ、介護する側も納得し共生できることが、お互いを認め合う社会、自分らしい生き方のできる成熟した社会と言えるのではないでしょうか。

グループホーム

痴ほうの状態にある高齢者が５～９人で共同生活をする施設です。家庭的な雰囲気の中で、介護スタッフによる食事・入浴・排せつなど日常生活の支援や機能訓練などを受けることができます。たとえば、「痴呆の高齢者を抱えて、家族で介護するのは難しいとき」「家庭的な雰囲気の中で生活させたいとき」などにご利用ください。

介護保険制度についてはこちらまで

介護保険課
【☎内線 572・573】

デイサービス

日帰りで介護施設などに通い、食事・入浴の提供、日常動作訓練、レクリエーションなどが受けられます。

例えば、「外に出てみんなと交流を持ちたいとき」、「仲間とレクリエーションを楽しみたいとき」、「家族の介護の手を休ませたいとき」などにご利用ください。

全国男女共同参画宣言都市サミット in ふくい に行って来ました！

11月14日、福井市において全国から1500人が集い、「全国男女共同参画宣言都市サミット」が開催されました。

オープニングイベントでは、地元の高校生による男女共同参画創作劇「雨ときどき晴れ」が披露されました。一人ひとりの存在意義や、心があれば家族・男女の間でも人を変えることができるということなど、とても考えさせられる創作劇でした。

基調講演は、テレビ番組「行列のできる法律相談所」でおなじみの弁護士・住田裕子さん（男女共同参画会議議員）による「今こそ、レッツチャレンジ」と題した講演でした。

女性が社会進出するためには、育児支援が重要であり、そのためには女性の働き方を見直すことが必要なこと、また女性自身もいろいろな選択肢について学習することが大切であるという内容でした。「女性がチャレンジすることによって、男性の元気にもつながり、社会の活気にもつながります。一緒にがんばりましょう」と力強いメッセージもいただきました。

続いて、首長10人のパネリストから各市町村の男女共同参画の取り組みについて報告がありました。

パネリストとして出席した中村市長は、八戸市の取り組みについての紹介の中で、市民意識調査に触れ、八戸市が男女共同参画都市であること、また男女共同参画基本条例を制定していることを知っている市民が、どちらも約5割という実状を8割までアップしたい。そのためには、今後子どもたちへの教育や市民の意識改革に努めたいと話されました。

八戸市からの参加者。観光 PR を兼ねて、「はちのへ」のハッピを着ました。

パネリストを務めた中村市長は、八戸市の男女共同参画への取り組みについて紹介しました。

また、八戸市出身で日本初の女性新聞記者であり、自由学園創設者の「羽仁もと子」について触れると、会場内には「知っている」とうなずく参加者の姿が多数見られました。私たちは、改めて先達の大きな存在を再認識させられました。

他の市町村では、「しきたり、慣習の見直し」という施策を掲げているところが多く、この取り組みが男女共同参画社会を実現に導くキーワードなのかなと思いました。

福井市は、人口25万人の静かな城下町で、歴史を大切に守り、それを生かしたまちづくりを進めています。

触れ合う人々の温かさを感じ、片道7時間もかけて福井サミットに参加した意義は、ここにもあったと感じました。

★ここがポイント★

男女共同参画推進本部（本部長＝内閣総理大臣）・内閣府では、男女共同参画社会の実現はわが国の最重要課題であるとし、平成6年度から「男女共同参画宣言都市奨励事業」を実施しています。

現在、八戸市を含めて全国の68市町村が「男女共同参画都市」を宣言し、男女共同参画社会の実現をめざして取り組んでいます。

「全国男女共同参画宣言都市サミット in ふくい」共同宣言

1. 私たちは、率先して男女共同参画を推進し、個人としての尊厳が重んじられ、性別にかかわらず個人の能力が発揮できる社会を築きます。
1. 私たちは、率先して男女共同参画を推進し、未来を担う子どもたちへの責務を果たします。
1. 私たちは、率先して男女共同参画を推進し、その輪を積極的に家庭・地域・学校・職場へ広げます。
1. 私たちは、率先して男女共同参画を推進し、少子高齢化、地方分権など直面する諸問題を克服します。
1. 私たちは、率先して男女共同参画を推進し、男女共同参画宣言都市をはじめとする多くの自治体の人々と連携・交流を図ります。

えみこの読書日記

『ハンサム・ガール』（小学校高学年・中学生向き文庫／佐藤多佳子・作）は、野球が大好きな小学５年生の女の子・二葉（ふたば）の物語です。

母はキャリアウーマン、父は元プロ野球選手で現在専業主夫。二葉は、両親のことが大好きだけれども、「普通じゃない」両親を恥ずかしく思っていた。

二葉は、野球チームでは控えのピッチャー。自分を認めてもらうために劇的な活躍をしなければと思い、しゃかりきになってがんばるが空回り。そんなある日の試合でのこと、幼なじみのエース・守（まもる）は調子が悪く、ピッチャー交代の指示が出たとき、「女の子に代わるなんて」と嫌な顔をする。逆境の中、二葉はピッチャーを無事つとめたものの、チームメイトの反応は冷たかった。

「女の子だから、自分はチームメイトになれない」と落ち込む二葉。でも、夏の暑い日も苦しいときも、毎日みんなと一緒に練習をした。そんな小さな積み重ねの末、一度は辞めようと思ったチームに溶け込んでいる自分に気がついた。

決勝戦の最終回、再び守はストライクを投げられず、二葉に「お前ならストライクが取れる。投げろ」と言ってマウンドを降りた。二葉はマウンドに立ち、両親のことを考えた。父も「仕事」というボールを母に渡し、「稼ぎ手」というマウンドを降りる勇気があった。父に能力がないからではなく、最大の力を出すために、それぞれの役割を担ってきたのだと気づく。

「普通」ってなんだろう、「本当の力」ってなんだろう。今の私たちは、誰が決めたかわからないことに縛られ過ぎて「本当の力」が出せないのかもしれない。

知って得するカタカナ用語

「ポジティブアクション」とは？

男女差別や年齢差別などによって起こるさまざまな格差をなくすため、差別されている側に一時的に有利なルールをつくり、差別的状態の解消をめざす措置です。一般に「積極的格差改善措置」と訳されます。女性社員の採用数を増やしたり、女性管理職の枠を広げるなどの例があります。

男女共同参画社会基本法では、国の責務として積極的格差改善措置をとることを明記しています。八戸市では、「男女共同参画社会をめざす はちのへプラン実施計画」において、審議会等に女性を30%以上登用することを目標に掲げています。

一人ひとりが生き生きと暮らせるまちをめざして

八戸市男女共同参画基本条例

ワンポイント講座

－基本理念－

「方針の立案及び決定への共同参画」

みんなの生活に大切なことがらは、できるだけ老若男女、いろいろな人の意見が反映されているほど豊かなものになります。どんな人の意見も重要です。

政策決定の場や職場、ＰＴＡなどいろいろな場で、方針立案の段階からその決定に至るまで、男女が平等にかかわることで、誰にとっても満足のいく決定をめざすことができるようになるでしょう。

編集後記

あっという間の２年間でした。条例など知識の豊富な藤村さん、何ごともたくさんの人に理解してもらいたいとがんばった羽田さん、完璧なぐらいに編集メモを取っていた工藤さん。皆さんに出会えたことが、編集委員となった２年間の私の財産です。（赤坂）

福井サミットに参加し、八戸市の取り組みが他の自治体より進んでいることを改めて知りました。

市民が行政に提言するためには、学習と意識を広げることが重要だと実感してきました。まずは、アンテナを広げ、情報をキャッチすることから始めよう！（藤村）

with you

この記事は、一般公募で選ばれた皆さんが作成・編集しています。

今期の編集委員は、赤坂さん・工藤さん・羽田さん・藤村さんですが、今回の号をもって任期を終了します。２年間ありがとうございました。

問い合わせ　市民連携課（男女共同参画グループ）【☎内線 628】